

「中国国際スマート産業博覧会 2020」への出展

広島市の友好都市である中国・重慶市がオンラインで「中国国際スマート産業博覧会 2020」を開催しました。広島市国際交流課の要請を受け、情報科学研究科がデジタル産業やスマート技術の発展に資する研究概要のポスターをオンライン展示しました。両市の友好の絆が深まるよう、広島市立大学も専門分野を生かして貢献していきます。



2020年9月15日～10月14日開催 / 世界各国 328社参加 / 約2,450万人来場

《ポスター展示概要（上記写真）》

★写真左：情報工学専攻モニタリングネットワーク研究室 西 正博教授、新 浩一講師、小林 真助教
広島市の課題である土砂災害に着目し、危険が予想される場所に設置した赤外線カメラのリアルタイム画像や避難情報をスマートフォンやテレビ等に提示し、住民の迅速な避難を促すモニタリングシステムを紹介。

★写真中央：システム工学専攻知的制御システム研究室 脇田 航准教授
バーチャルリアリティ（VR）に関する研究として、ゲーム・エンターテインメント、リハビリテーション、ドライビングシミュレーター等への応用を想定し、簡易な仕組みでより安全かつリアルに歩行感覚、揺動を実現する技術や装置を紹介。

★写真右：システム工学専攻メカトロニクス研究室 李 仕剛教授
人間と共存するロボットの開発を目指し、ロボットに視覚機能を持たせる研究として、周囲を漏れなく観測できる全天周カメラを利用した知的車椅子ロボットや、観測された球面画像を処理する技術を紹介。